

当センターにおける切除不能膵癌の治療

1. 研究の対象

2000 年 1 月以降、当院で膵癌と診断され、治療を受けた方が対象となります。

2. 研究目的・方法

研究の目的

膵癌は未だ予後不良な疾患で、明らかな遠隔転移はないものの血管に高度に浸潤を認めるため、切除ができないと判断された膵癌は、切除不能局所進行膵癌と定義されます。また遠隔転移を伴うため切除不能と判断された膵癌は遠隔転移切除不能膵癌と定義されます。切除不能局所進行膵癌に対する一次治療としては、化学療法単独または化学放射線療法の 2 つの治療方法が推奨されています。遠隔転移切除不能膵癌は化学療法単独が推奨されています。近年、ゲムシタビン+ナブパクリタキセル療法や FOLFIRINOX 療法などの化学療法の進歩によって、治療効果が得られ生存期間の改善がみられてきていますが、未だ満足いくものではなく、さらなる発展が必要とされます。放射線治療においては、IMRT(強度変調放射線治療)や SBRT(体幹部定位放射線治療)などの高精度放射線治療が取り組まれており、さらに重粒子線治療の開発も進んできています。また、放射線治療前の一定の期間に化学療法を行う導入化学療法といった治療戦略の有用性も報告されてきています。最近では化学療法の進化に伴い、診断時点で治癒切除が難しいと考えられていた患者においても手術が可能となる症例が増えつつあります。

本研究では、当院における切除不能膵癌を含む膵癌患者の情報を後方視的に集め、様々な検討を行い、新たな知見を得ることを目的とします。

方法

2000 年 1 月以降の当院に診療録が存在する切除不能膵癌を含む膵癌の患者さんを対象として、患者背景、検査結果、治療情報、臨床経過、副作用情報などを診療録より収集し、検討を行います。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、既往症などの患者さんの背景に関する情報や、受けた治療の内容と、その治療の効果や副作用に関する情報、また採血結果や画像診断などの医療情報、など。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

様式第 1-4 (2018. 4. 1 版)

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪国際がんセンター 肝胆膵内科 高田 良司

住所：〒541-8567 大阪府中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

研究責任者：

大阪国際がんセンター 肝胆膵内科 高田 良司

-----以上